

ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の持続的開発と環境保全(16)

— 南パンタナール・エストラダパルケにおけるエコツーリズムの発展 —

Sustainable Development and Environmental Preservation in the Pantanal, Brazil (16):

Growth of Ecotourism at Estrada Parque in the Southern Pantanal

仁平尊明* (筑波大学), コジマ・アナ (マトグロッソドスル連邦大学), 吉田圭一郎 (横浜国立大学)

Takaaki NIHEI* (University of Tsukuba), Ana Y. KOJIMA (Universidade Federal de Mato Grosso do Sul),

Keiichiro YOSHIDA (Yokohama National University)

キーワード: エコツーリズム, エストラダパルケ (パンタナール公園道路), 南パンタナール, 環境問題

Keywords: Ecotourism, Estrada Parque (Pantanal Parkway), Southern Pantanal, Environmental Issue

熱帯湿原特有の豊かな動植物相を有することで知られるブラジル・パンタナールでは、1990年代からエコツーリズムが盛んになり、とくに欧米から多くの観光客が訪れるようになった。エコツーリズムのブームにともなって、ファゼンダの観光化や大規模なホテルの建設が進行し、生態系へのインパクトや住民生活の変化などの地域問題が顕在化した。本研究では、南パンタナールのエストラダパルケ (パンタナール公園道路) を対象として、宿泊施設の立地展開に注目することから、パンタナールにおけるエコツーリズム発展の課題を考察する。調査を実施した時期は、2003年8月、2004年8月、2005年3月、2005年8月、2006年8月であり、調査の内容は、宿泊施設の経営者や管理者への聞き取りである。

研究対象地域 南パンタナール (マトグロッソドスル州) のエストラダパルケは、北パンタナール (マトグロッソ州) のトランスパンタネイラと並んで、ブラジル・パンタナールにおいて観光開発が最も進んでいる地域の一つである。エストラダパルケは、ボリビアとの国境にある大都市・コロンバの南から湿原に入る未舗装の道路である (Fig.1)。パラグアイ川の渡河点であるポルトダマンガからクルバドレイキまでは東西に走り、クルバドレイキから連邦道路262号線沿いのブラーコダスピラーニャスまでは南北に走る。総延長は120kmであり、ミランダ川、アポーブラル川、ネグロ川などの主要河川とその支流の上には87の木橋が架かる。

宿泊施設の分布 トランスパンタネイラ沿いとその近隣

には、19の宿泊施設が立地する (Fig. 1)。そのうち、スポーツフィッシング客を主な対象とする釣り宿は6軒 (サンタカタリーナ、パソドロントラ、タダシ、パルティクラ、カバーナドロントラ、ソネットウール)、エコツアーを提供する設備が整った大規模なホテルと民宿が3軒 (パルケホテル、パンタナールパークホテル、クルビーラ)、既存のファゼンダが観光化したエコロッジが5軒 (ペーラビスタ、アララアズール、サンタクララ、シャランエス、リオベルメーリョ)、キャンプ場または素泊まりの安い部屋を提供する民宿が3軒 (エキスペディションズ、ボアソルテ、ナトゥレーザ)、そのほかに、ホテルに付随した観光ファゼンダ (サンジョアオン) と大学の研修所 (UFMS) がある。

宿泊施設の開業年 1960年代と1980年代に開業した宿泊施設は、5軒が釣り宿であり、そのほか、民宿、研修所、キャンプ場が1軒づつある。1990年代に開業した宿泊施設は、ホテルが2軒、釣り宿が1軒、エコロッジが1軒である。2000年以降に開業した宿泊施設は、ファゼンダが4軒、キャンプ場などが2軒、ホテルの付随施設が1軒である。このように、エストラダパルケの宿泊施設は、1980年代以前には大河川沿いの釣り宿、1990年代には大河川沿いの大規模なホテル、2000年以降には河川から離れたファゼンダとキャンプ場の開業に特色がある。

エコツーリズム発展の課題 世界遺産にも登録されたパンタナールは、観光地として有名になり、観光によるパブル経済を引き起こしている。1990年代後半に宿泊施設を開業した経営者は、1haあたりの土地を230~300レアルで購入した。2001年に開業した宿泊施設の土地購入価格は、350~400レアル/haであり、2003年になると730レアル/haまで上昇した。近年では、東部海岸の大都市や外国出身の地主が増加している。また、観光客が家族から個人の若者になったことも問題である。彼らの多くは、ボリビア、ブラジル西部、パラグアイ、アルゼンチンと移動するムッシレイロ (バックパッカー) である。

[本研究は、平成16・17・18年度科学研究費補助金「ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の包括的環境保全戦略」(基盤研究B(2) 課題番号16401023 代表: 丸山浩明) の補助を受けた。]

[本研究は、平成16・17・18年度科学研究費補助金「ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の包括的環境保全戦略」(基盤研究B(2) 課題番号16401023 代表: 丸山浩明) の補助を受けた。]

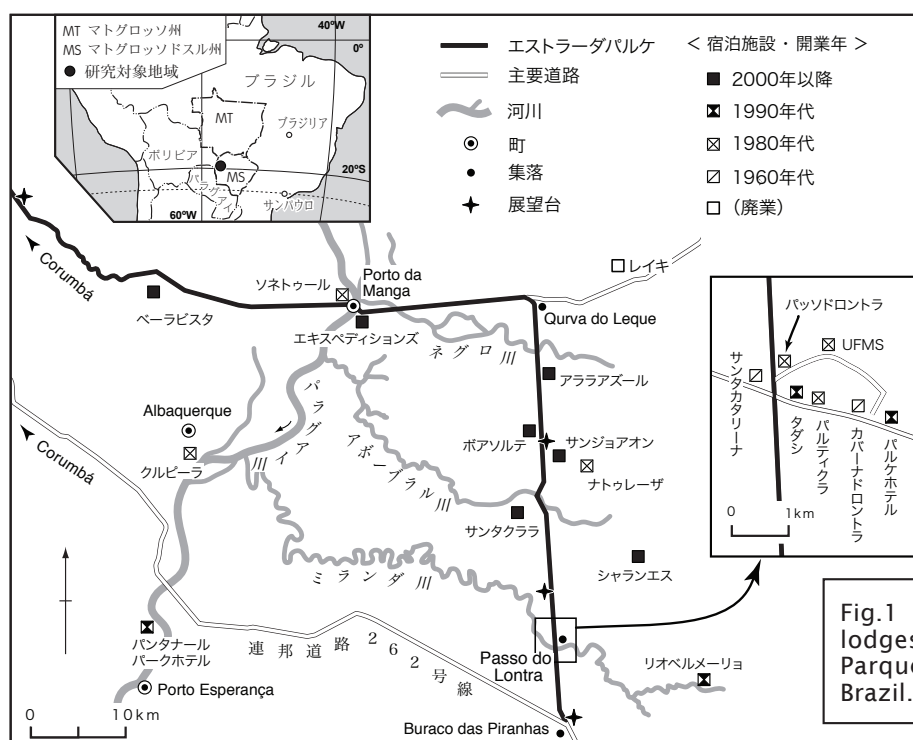


Fig.1 Distribution of hotels, fishing lodges and eco-lodges at Estrada Parque in the Southern Pantanal, Brazil. Source: authors' field survey.